

ごみ減量 最前線



桂苑のごみピットに投入される可燃ごみ

1年間に

2億2,411万1千円

Interview

桂苑は、平成6年4月から稼働を開始したじん芥処理場です。「ごみ焼却処理施設」と「粗大ごみ処理施設」の2つの施設があり、桂川町・旧穂波町・旧筑穂町のごみが、年間約15,694t、一日当たり約56t運び込まれています。処理後の灰はほぼすべて再利用され、焼却時に発生する有害ガスの除却や排水処理の徹底など環境面にも配慮された、衛生的で安全な施設です。

しかし、規格外のごみや引火物が含まれたごみが持ち込まれると、機械の故障や火災の原因となり非常に危険です。ごみの分別や適切な出し方についてご協力をお願いします。



飯塚市・桂川町衛生施設組合
「桂苑」(じん芥処理場)

なかの しょういち
中野 生一 施設長

これは、平成25年度中に桂川町から出たごみの処理にかかった費用の合計です。桂川町のごみは、資源となるものを除き、飯塚市・桂川町衛生施設組合「桂苑」(じん芥処理場・九郎丸)で処理されています。桂川町でゴミ袋で排出される年間のごみの量は約4,585t(平成25年度中)で、一日あたり約12・5tのごみが発生していることとなります。

このごみを処理するためには、運搬や焼却など多額の費用が使用されているだけでなく、焼却によって排出される二酸化炭素は地球温暖化の原因の一つとなっています。ごみ問題は、町財政の圧迫という直近の問題から、将来の地球への影響まで、広範囲にわたる問題です。今回は、桂川町のごみの現状と、ごみを減らすためにできることを考えます。